

せき 堰のようす

湯川村は、^{けんない}県内でもおいしいお米が多くとれる米どころです。

これは、^{いね ひつよう}稲に必要な水を確保するために、^{かくほ}祖先の努力によって^{せき}堰が作られ、^{まも つづ}守り続けられてきたためです。

勝常地区では、いくつかの堰により用水を確保しています。その中でも一番古い^{かわぬませき}河沼堰は、^{ちゅうせいまっ き てんもん}中世末期天文5年(1536年)に、^{あ ががわ}阿賀川(大川)より^{しゅすい}取水しています。その後、会津若松市の^{たかく ちない}高久地内から水を引きました。この堰は、^{さ の ぜき}佐野堰といえます。このほかにも^{お の だ ぜき}小野田堰や^{こう か ぜき}弘化堰などがあり、約530ヘクタールの水田をうるおしています。

笈川地区でもいくつかの堰から用水を確保しています。そのうち、^と戸の^{くちぜき}口堰^{げんろく}※1は元禄6年(1693年)に^{い なわしろ こ}猪苗代湖から^{しゅすい}取水する^{こうじ}工事が行われました。その後、堰の幅を^{かくちょう}拡張する工事が3年かかって行われ、のべ5万5千人もの人々が働きました。^{はたら}戊辰戦争^{ほ しんせんそう}※2の時、^{びゃっこたい}白虎隊が^{じしん}自刃したこと
で有名な^{いいもりさん}飯盛山の^{さんぶく}山腹にある^{どうもん}洞門も、この^{こうじ}工事によりできたものです。
また、^{てん な}天和2年(1682年)に、^{にっばしがわ}日橋川から^{しゅすい}取水する^{たか せ ぜき}高瀬堰が^{かんせい}完成しました。この堰により約250ヘクタールの田に水を引くことができました。

※1 戸の口堰……猪苗代湖西岸の船着き場の近くにある。

※2 戊辰戦争……新政府と旧幕府の戦争。干支の戊(つちのえ)と、辰(たつ)から戦争の名がつけられた。(1868年1月～1869年5月)



河 沼 堰



高 瀬 堰